

# みんなで子育て No. 6

過去5年間分のバックナンバー



岐阜県環境生活部 環境生活政策課  
家庭教育推進専門職 : 辻  
Tel 058-272-8752

長い夏休みを終えましたが、親子の絆を深める時間を設けることはできましたでしょうか。夏休み中には、親子と一緒に参加する親子体験型のイベントが、各市町や企業等で多く企画されていました。今回は、その中の一部を「No.5」に引き続き紹介させていただきます。

各園や学校の計画表を見せていただくと、県が推進している「話そう！語ろう！わが家の約束」運動の取組を、夏休み中に計画されているところが多数ありました。ありがとうございます。

今後、取組カードを回収し、取組内容や状況をまとめられる学級もあるかと思います。昨年度の通信「No.13」に、「網代小学校の報告だより」の実践を紹介させていただきましたが、とても上手にまとめられていますので、参考例として目を通してみてください。



## 企業内家庭教育研修 「岐阜車体工業株式会社」(親子体験型) 7月25日



岐阜車体工業では、従業員の健康確保を経営の最優先課題の1つに位置づけ、2005年に健康づくりを支援する「A-lifeサポートクラブ」をスタートされ、2013年からは産業保健師を配置し、「勤めれば健康になる会社」を目指してさまざまな活動を行ってまいります。

従業員の家族にも会社に来ていただき、**仕事内容を知っていただくとともに、会社としてこだわっている健康維持につながる食事についても理解を深めてもらうために「会社見学会」を開催してまいります。**車ができていく工程を見学し、感じたことや疑問に思ったことを家庭での話題にしてもらうことで、**家族の絆を深める良い機会になってくれることを願ってまいります。**

食堂は、天井に食品の絵が描かれていたり、乳酸菌入りのお茶がいつでも自由に飲めるようになっていたりして、とてもおしゃれで居心地のよい空間となっています。

工場見学の後には、お父さんたちがいつも利用している「体と気持ち元気になる食堂」で、各自が希望するメニューを注文し、実食することができました。昨年度は新型コロナウイルスの影響で食堂のものを食べられなかったそうで、リベンジ参加されている親子もありました。



きれいでおしゃれな社員食堂



使われている油脂量を表示

### 参加者の声

思っていたより工場内がきれいで、部品なども扱いやすいようにしっかり管理されていることが分かりました。**時間に追われている感じで、大変そうな仕事だと感じました。**工業用ロボットによる自動化率が85%であることには、びっくりしました。

お父さんは、改善する仕事をしているので会えなかったけれど、工場が大きくて、ロボットがたくさん動いていてすごかったです。**栄養管理の話は家でも話題になっていて、お父さんのお勧めのカレーを食べました。**少し辛かったけれどおいしかったです。今日はとても楽しかったです。

**限られた時間の中で、決められた仕事をしなければならないので大変だなあと感じました。**でも、トイレに行きたい時や困ったことが起きた時には、ひもを引いて知らせると、代わりの人が助けに来てくれることを知り、ちょっと安心しました。

講師：常磐地区食生活改善推進員の皆さん（代表：尾野 孝子 氏）

コロナ禍のため、4年ぶりの開催となった「親子クッキング教室」。とても人気で、応募3日目で定員に達し、募集期限よりずいぶん早い段階での申し込み停止となったようです。

代表の尾野氏から食育に関わる大切な「5つの力」について説明があり、この日挑戦する3品の作り方と注意点を聞いた後、調理に入りました。包丁を初めて握る児童も3名いましたが、可能な限り子どもたちの力のみによる完成を目指し、保護者は子どもの様子を見守り、危ない時だけ支援する形で行われました。（小1～小5 19名の児童とその保護者）



みんなで学ぼう！食育5つの力

<p><b>1 食べ物の味がわかる力</b></p> <p>たくさんの食べ物を食べてみることで、味や食感を覚えてみる。自分自身で調理をすることで、味や食感を覚えてみる。</p>	<p><b>2 食べ物のいのちを感じる力</b></p> <p>野菜や果物の成長の様子を観察する。野菜や果物の成長の様子を観察する。</p>	<p><b>3 食べ物をえらぶ力</b></p> <p>買いたい物、食べたい物を考える。買いたい物、食べたい物を考える。</p>	<p><b>4 料理ができる力</b></p> <p>家の人がいっしょに料理をする。家の人がいっしょに料理をする。</p>	<p><b>5 元気なからだがわかる力</b></p> <p>毎朝、毎晩、運動をする。毎朝、毎晩、運動をする。</p>
--	--	--	---	---



参加者の声

- ・家では、朝ごはんの準備のお手伝いをしています。僕からお母さんに「行きたい！」と言って、申し込みました。料理するのは、とても楽しいです。（男子児童）
- ・いつも「やりたい！」と言っていて、キュウリやナスを切ってくれるのですが、1品完成させるのは、実は今日がはじめてです。（母親）

- ・家では、あまり一緒に料理をすることは無いのですが、「行く？」と声をかけたら、「行きたい」との返事だったので、申し込み参加しました。（母親）
- ・「料理って、楽しいなあ〜」（男子児童） と言いながら一所懸命に手を動かしていました！

- ・切ったり、混ぜたり、のせたりしてつくるのが楽しかったです。（男子児童）
- ・家では、気が向いたときに作ってくれています！（母親）



羽島市児童センター 園児対象親子体験教室「親子ダンス教室」 7月29日

講師：フィットネス・インストラクター 野原 渚 氏

入園前の親子の利用が多い児童館。休日などは、小学生を対象としたイベントが多く小学生の利用も多数。ただ、園児の時期の利用は意外と少なめなんだそうです。ある市民の方から、「園児を対象としたイベントはありますか？」という問い合わせがあったことをきっかけに、今回初めて、園児親子を対象としたイベントを企画されました。今年度はまず2つを企画。今回はその1つ目で、10月に2つ目を行う予定だそうです。

今回の親子ダンス教室の講師を務められた野原氏は、「バナナくんたいそう」と「ジャンボリミッキー」を準備されました。準備体操代わりに行われた「バナナくんたいそう」は参加していた子どものリクエストにより、なんと3回も行われる人気ぶりでした。少し難易度が高い「ジャンボリミッキー」は、全体をいくつかのパートに分け練習がおこなわれました。その後、子どもたちだけでダンスをする時間が設けられ、保護者が動画等を撮影する機会がつけられました。踊り終えた後は、親子でハイタッチしたり、ハグしたりする姿も見られました。撮影した動画を家庭で観直すことで、親子のふれあいの時間が増やせそうです。



参加者の声

体操教室のママ友からお誘いの連絡が入り参加しました。とても楽しい時間でした。またこのような機会があれば、ぜひ参加したいです。（母親）

土曜日には、よく児童センターを利用しています。そこでこのイベントのことを知り参加しました。家より広いスペースで、からだを使って遊べるので、とてもよいイベントだと思います。（父親）

参加者全員が、また参加したいとアンケートに答えていることを確認しました！

講師：グラスサンドアート・インストラクター 栗木 有里 氏

牛牧小学校PTA家庭教育 夏休み企画  
親子でグラスサンドアート体験

8/2(水) 10:30~12:00  
牛牧小学校会議室

20家族様限定!!

- ①500円 (直徑約7.5cm×高さ7cm) (1と同じサイズ、飾りなし。)(2)200円、③は100円で別途で飾り購入可能です。(飾り込み、1家族様1個のみ)
- ②800円 (1と同じサイズ、飾りなし。)(2)200円、③は100円で別途で飾り購入可能です。
- ③500円 (1と同じサイズ、飾りなし。)(2)200円、③は100円で別途で飾り購入可能です。

夏休みに、親子で楽しくサンドアートを作ってみませんか?  
1つの作品を相談しながら作ったり、それぞれ別々で作ったり...  
カラフルなガラスの砂の海へ一歩ずつ着いて想像を膨らませてください。  
お好きな色と飾りでオリジナル作品を楽しみましょう。

※必ず親子で参加してください。(未就学児の参加もOK!)  
7月3日(月)までにお子さまを通じて学級担任へご連絡ください。

応募多数の場合、抽選させていただきます。  
申込みされた方、全員にお子さまを通じて返信させていただきます。

牛牧小学校PTAでは、親子のふれあいを深めていただくために、夏休みに親子体験型の家庭教育学級を企画されました。当校では、PTA本部役員の2名が「家庭教育学級の担当」を務めてみえます。本部役員は2年任期方式をとり、2年目の方が「正」、1年目の方が「副」を務められてみえます。1年目の経験を活かし、2年目の計画立案と運営を円滑に行うことができるように工夫されています。実際の運営に対しては、有志ボランティア(保護者)の協力があり、担当者の負担軽減を図りながらの活動となるなど、家庭教育学級として理想的な形での取組となっていました。

制作活動は、講師の栗木氏が準備された20種類のカラーサンドの中から4種類を選択し、ガラス容器の中に層状の模様ができるように、さじを使って砂を入れ積み重ねていきます。砂の入れ方によって模様の形が変化しますが、イメージどおりの模様を描くにはある程度経験が必要のようです。しかし、思い通りにはいかない面白さがあるように感じました。

きれいな模様ができると、「上手にできたね!」等と保護者がわが子に声をかける姿があり、子どもたちは認められる喜びを感じながら、満足そうな表情で活動していました。

参加者の声

チラシを見て、可愛かったので、夏らしいものを作りたいと思って応募しました。楽しかったです。

学校で配布されたチラシを見て応募しました。子どもは工作が好きですし、お姉ちゃんと一緒に調理などもしています。次は、アクア・トトに風鈴を作りに行く予定です。(保護者)



岐阜県庁内に、令和5年4月に開園した「ぎふっこ保育園」は、子育て中の県庁勤務者並びに地域の方を対象にした保育園です。この日は、「ヨーヨー」「うちわづくり」「ボーリング」の3つのコーナー遊びが準備されており、親子で一緒に楽しむ姿が見られました。



保育園では、参加者用のメダルと個人用のうちわを準備されました。メダルには、各コーナー遊びを行うとシールが貼れるようになっており、うちわにはスイカの絵と子どもたちの笑顔の写真が貼られていました。(左の写真は地域の方用のうちわで、写真の代わりに動物の絵が描かれています)うちわは、親子でシールで飾りつけたり、クレヨンで絵を描いたりして、オリジナルなものになるように工夫されていました。

参加者の声

育児は楽しいのですが、核家族なので家事との両立、更に仕事との両立(三立)となると行き届かないところが出てきて難しいです。もちろん旦那さんも家事の手伝いはしてくれますが、子育て中の親を更に社会みんなで支えてもらえるとうれしいです。今日はスタッフの皆さんに笑顔で迎えていただけてうれしかったです。楽しい時間が過ごせましたし、安心できました。

講師：TEPIA 先端技術館 + 学生ボランティア



各務原市では、「この夏、みんなで『楽しい!』を見つけよう!」をキャッチコピーとした小学生向けの体験講座を58講座計画されました（YouTubeによる動画講座6つを含む）。内容は、**つくる、観察する、学ぶ、演奏する、からだを動かす、料理するなど、子どもたちの様々なニーズに対応**できるものとなっています。

今回は、特別講座として計画されたプログラミングを行い、小型ドローンや球体型など5種類のロボットを動かして、ミッションを達成する講座を取材させていただきました。

左は、**プログラミング的思考を身につける**ためのロボットを使って、アルゴリズムを学んでいるところです。カードに描かれている指令を理解し、指令が連続的に実行されるようにカードを選択して並べていきます。スタートカードにロボットを置くと、ロボットが指令を読み取り、自動で移動始めます。頭の中で思い描いたようにロボットがゴールまで移動できればミッション成功です!



球体型ロボットは、タブレット上のツールを用いて、速さ・時間・方向をプログラムすることで、指定した方向と距離にロボットを回転移動させ、目的の場所に到達させることができます。操作に慣れてくると、途中で障害物を複数置き、それらを回避しながら目標地点に移動させることに挑戦していました。**何度もプログラムを調整、改善することでミッションを達成させることができると保護者は拍手したり、頭をなでたりして、わが子の頑張りやを認めていました。**



TEPIA先端技術館（東京都港区・入場無料）では、プログラミング体験や先端技術も常設展示中。ぜひ、ご来館ください。

### 参加者の声

上の子は、プログラミングを習っていて、よい機会なので参加してみたらと声をかけました。下の子も興味があるみたいなので、今日参加してみた後、本人の気持ちを確認したいと思っています。（二人の男子児童の母）

**イベント情報は母親がよく調べていて、いろいろ参加しています。まだ1年生なので、角度とか3桁の計算など学習していませんが、体験しながら覚えられるとよいと思います。マウスを使うのは、今日初めてだと思うのですが、感覚的に使えていることがわかったことは収穫です。**（男子児童の父）

## 岐阜県庁 「子ども参観日」 8月18日



岐阜県庁では、小学生を対象に、親の職場や仕事の様子を見学する「子ども参観日」を行いました。コロナ禍のため、久しぶりの開催となった今回は、60名の定員に対し100名近い応募がありました。

本催しは、親子で仕事と家庭の在り方を考えるきっかけを提供するもので、**子どもの勤労観、職業観を育み、家庭での親子のコミュニケーションや絆を深めることを目的に実施**しています。

朝は親子で出勤し、親の所属部署で1時間半ほど仕事体験を行いました。当課で参観した子どもたちは、PCに情報を入力して作成した自分の名刺を他の部署の参加者と交換したり、封筒に課名のゴム印を押したり、催しの案内板をつくったりする仕事を体験していました。

仕事を体験した後は、庁舎内、県議会議事堂、県警本部など、普段なかなか見ることができない場所を見学して回りました。

### 参加者の声

「子ども参観日」のことを聞いて、お父さんがどんな仕事をしているか知りたくて、参加することにしました。普段は帰りが遅いのでお話ができないけど、休日は一緒に出かけたり、学校の出来事などを話したりしています。今日は緊張して疲れたけれど楽しかったです。（小3と小5の兄弟）

子どもたちのとのふれあいを増やせるように、休日は、なるべく一緒に遊ぶようにしています。また夏休みは、その日の出来事を聞くようにしています。今日はドキドキしながら子どもたちの様子を見ていました。このような機会がないと職場に入れないので、よい機会になったと思います。（父親）

いろいろな体験活動を取材させていただきましたが、どの子どもたちも生き生きと取り組んでいる姿が印象的でした。**なかなかうまくいかなくても、子どもなりに考えて挑戦を続けます。**この体験こそが、とても大切であると考えます。

家庭内の普段の生活の中でもお手伝いという形で、いろいろな体験の機会を設けることができます。「ちょっと手伝って!」と声をかけて、親子一緒に活動してみたいはいかがでしょうか。

### 【体験活動の重要性】

文部科学省は、平成13年に出生した子ども（2万人以上）とその保護者を対象に、18年間に渡り追跡した調査データを用いて、時系列的な観点から、子どもの頃の「体験」が、その後の成長に及ぼす影響について分析し、その関連性を明らかにしました。

特に、子どもが置かれている環境を考慮し分析を行った結果、**小学生の頃に体験活動の機会に恵まれていると、高校生の頃の自尊心が高くなる傾向が、家庭の経済状況などに左右されることなく見られることが分かったと報告しています。**

また、「遊び相手」による成長への影響を分析したところ、**異年齢の子どもや家族以外の大人など多様な相手と遊ぶ機会が多いほど、自尊心や外向性などに良い影響が見られる**としています。

(令和2年度青少年の体験活動に関する調査研究結果報告(令和3年9月8日)より)

体験活動をさせる上で、大人が注意するとよいことがいくつかあります。次の5点については、特に注意が必要です。ご確認ください。

**大人は、手と口を出さず  
ただ見守ってください!**

1. 「速く、速く」と急ぎ立てない。
2. よかれと考え、先回りしない。
3. 「時間だから」「もういいから」と途中で止めない。
4. それは「危ないから」、ここは「難しいから」と代行しない。
5. ほったらかしにせず、しっかり見守る。

## 子育て・家庭教育学級等のミニ情報

突然ですが、「**デコ活**」という言葉をご存じですか？

「脱炭素につながる新しい豊かな暮らしを創る国民運動」の愛称を「デコ活」といいます。

二酸化炭素(CO<sub>2</sub>)を減らす脱炭素(Decarbonization)の(DE)と、環境に良いエコ(Eco)をくっつけて「デコ」で、生活・活動の「活」を組み合わせるとつくられた新しい言葉になります。

今年の夏は、異常に暑かったですが、「地球温暖化」の影響と考えられています。地球温暖化の原因と言われる「温室効果ガス」には7種類ありますが、その中で大きなウエイトを占めるのが二酸化炭素です。二酸化炭素濃度の上昇は、人間による化石燃料の消費が1番の原因と考えられています。

日本は、2030年度の二酸化炭素排出量を2013年度から46%削減するという目標も掲げています。部門別の削減目標を見てみると、産業の38%や運輸の35%を上回る、66%という高い値を「家庭」に設けています。国民一人ひとりのライフスタイルが変わらなければこの目標に近づくことはできません。よく「節電」が叫ばれますが、これは、発電割合が1番大きいのが「火力発電」であるためです。



家庭、親子で取り組める「脱炭素」「カーボンニュートラル」について学びたい場合は、**「岐阜県地球温暖化防止活動推進センターの講師派遣事業」**の活用もご検討ください。(本年度分の募集を終了している講座もありますので、HPでご確認ください。)



「ぎなんプレーパークの会」の活動を見学させていただきました。

「プレーパーク」とは「(冒険)遊び場」を意味し、自然の中での自由遊びができる場を子どもたちに提供します。公園のような遊具もない広場において、虫を捕まえたり、植物の花や実をすり潰して作った色水で染めものをしたり、木の切れ端や枝や実を使って工作したり、子どもたちが自由な発想で遊ぶことめざします。そうすることで、自発性や主体性、創造性など、子どもたちが本来もっている力を呼び起こします。



近年は、キャンプや川遊びを兼ねてのバーベキューなどのアウトドアライフが人気で、家族で自然の中での生活を体験されている方も多いと思いますが、家庭教育学級の1つとして企画することも可能ではないでしょうか。

子どもたちが自然の中で遊んでいる時間を、親たちは子育てについて交流する時間とすれば、休日・長期休みのサロン型の取組となります。



## 9月21日～30日は「秋の全国交通安全運動」です！

本運動の重点は、「こどもと高齢者を始めとする歩行者の安全の確保」「夕暮れ時と夜間の交通事故防止及び飲酒運転等の根絶」「自転車等のヘルメット着用と交通ルール遵守の徹底」の3点です。

幼児・児童の死亡・重傷事故は歩行中の割合が高く、その約4割は登下校に起きています。自転車乗用中の交通事故死者数は減少傾向にありますが、自転車関連の事故件数は2年連続で増加しています。

自転車乗用中死者の損傷主部位は、頭部が半数以上となっており、ヘルメット着用の有無が生死を分ける重要な要因になっています。残念なことには、自転車乗用中の死亡事故では、自転車側の多くに法令違反が認められるようです。

岐阜県の昨年度の交通事故の現状をしてみると、人身事故件数は、2985件で全国26位ですが、死者数は75人で同11位です。そして、人口10万人当たりの死者数は3.86人で全国ワースト2位(全国平均の1.84倍)という結果でした。

夏休みに入り、岐阜地区管内で小学生が関係する交通事故が連続して発生しました。地域のラジオ体操に参加するため、子どもにとって普段あまり使わない道路の移動中に、運転手にとっては普段は子どもの姿がない時間帯での走行中に、事故が発生していたように思います。双方ともに、いつも以上に注意しなければならない状況であったのに、その意識がなかったことによるものと考えられます。

水の事故も多数報じられていましたが、気をつけていたものの、どこかで「自分だけは大丈夫」という理由なき自信や油断があったのではないかと推察します。

これからは日没の時間も徐々に早まり、運転手が歩行者や自転車を認知しにくい時間帯も変化します。子どもたちには、「きっと、〇〇だろう！」が、とても危険な考えであることを繰り返し指導したいものです。

